

愛知大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

2024（令和 6）年度 自己点検・評価報告書

■ 自己点検・評価を行う体制

愛知大学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会

責任者 加納 寛（教学担当副学長）

■ 2024(令和 6)年度のプログラム履修・修了状況

名古屋・豊橋校舎各教務課にてプログラムの履修・修得状況を管理するとともに、これらのデータは数理・データサイエンス・AI 教育運営部会と共有し、プログラムの評価・改善に活用している。

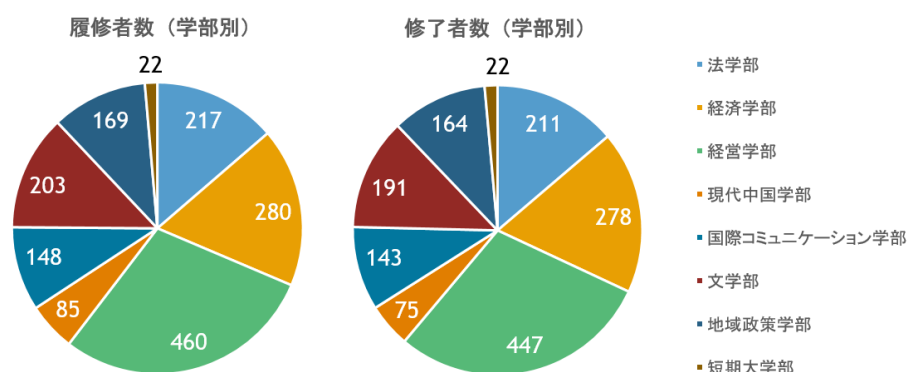
2024(令和 6)年度のプログラム履修・修了数は以下のとおり。

（2024(令和 6)年度 履修者・修了者）

履修者数 1,584 名 ※プログラムは 2022(令和 4)年度以降入学生のみ履修可

修了者数 1,531 名

学部別（短期大学部含む）内訳



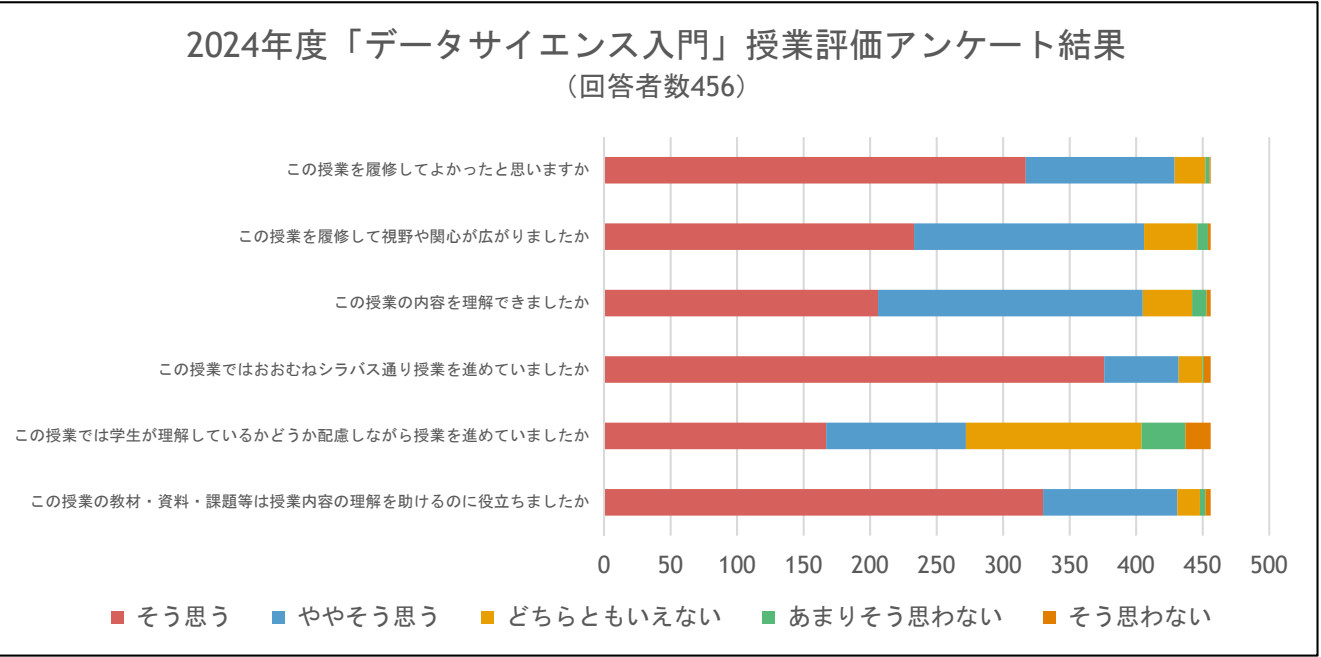
プログラム全体の通年での履修定員枠 1,600 人（名古屋校舎 1,200 人、豊橋校舎 400 人）は、履修登録時に全枠埋まっており、プログラムに対する学生の関心が高いことが伺える。

	春学期			秋学期		
	定員	申込者数	履修者数	定員	申込者数	履修者数
名古屋校舎	600	1,214	600	600	1,073	600
豊橋校舎	200	209	200	200	261	200

■ 学生の理解度、プログラムの評価

学習・教育支援センターで毎年度実施している「学生による授業評価」アンケートの結果から、数理・データサイエンス・AI 教育運営部会にて、受講者の理解度等を分析し、プログラムの評価・改善に活用している。2024(令和 6)年度の「データサイエンス入門」（プログラムの必修科目）のアンケート結果では、「この授業の内容を理解できましたか」という設問に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合は全体平均より高く、理解度は高水準にあることが伺える。他

方で、「この授業では学生が理解しているかどうか配慮しながら授業を進めていましたか」という設問について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合は全体平均より低く、改善の余地が認められる結果となっている。



2024(令和 6)年度の「学生による授業評価」アンケートによる履修者の声では、理解度という観点から見ると概ね良い評価のコメントが多いが、そうではない回答も一部あり、今後の改善に活かしたい。なお、「演習課題が急に現れたため気づかずに 0 点にされた」というコメントがあるが、演習課題は初回から掲示してあるためこの学生の認識不足であったと思われる。

(履修者の声)

理解度の高さに繋がっていると考えられるコメント

自分の時間で進められるのが凄く良かった。/面白く、実用的な内容もある、楽しい授業だった。/Excel が難しかったが、楽しかった。/普段は殆んどエクセルを使わない私でも問題なく課題をこなすことが出来ました。また、テレビ等でよく聞けけれど意味を知らない、今更聞けないような言葉についてもしっかりと取り扱って貰えるので安心して受講出来ました。/オンライン上で完結する授業なので、自分の都合が良い時間に受けることができて良いと思った。/自分では知り得ない情報がたくさんあり、知識が身につけてとても有意義な講義となりました。/データサイエンス入門を受講して、Excel がすごく苦手だった私が Excel を少しだけ使えるように成長した。解説動画が非常に丁寧に分かりやすかった。/演習問題の説明動画が理解しやすかった。/本講座のおかげでパソコン操作について成長できたと思います。/もっとこの講義のようなオンライン講義を設けて欲しい。/受講当初からオンデマンドで講義内容が紹介されていたため、自分のペースで学習を進めることができました。/受講時間に柔軟性を持たせていることで他の授業との関連で予定を組みやすかったです。本講義のように通常の授業時間外での講義をもっと多くしてもらえるとありがたいです。/わかりやすい説明でした。/大学に入り、情報リテラシーや情報を活用する場面が増えたため、とても役に立ったと感じました。さらにエクセルに特化した解説講義があると嬉しいなと思いました。/改めて Excel の計算式の使い方や社会で求められる知識を学ぶことができました。

改善点に関するコメント

Excel の問題が、何を求めれば良いのかとても分かりにくく、あれで評価をつけられるのはとても不満に思いました。/オンラインではなく対面のほうが良いと思いました。/自分の確認ミスかどうか分かりませんが、演習課題が急に現れて、どんどん先に進めていた自分はそれに気づかず、0 点にされました。自分のミスなのであればいいのですが、もし対面授業でもないこの授業で勝手に演習課題を追加したのであれば普通は連絡するのが常識だと思うので、もしそれで単位落としたら不服です。/Excel の課題が映像と課題データで異なるところがあり、少し苦戦しました。ありがとうございました。/私たちの身近にこんなにも AI が活用されているのだと知って、社会のあらゆる企業の最新技術の仕組みをより深く調べたいと思った。しかし、Excel 演習は、やはり対面で行ったほうが理解は深まると思った。/Office の使

い方について学べたが WindowsXP と思われるスクリーンショットや古い情報が散見された。

■プログラム修了者の進路に関する事項

プログラムは 2022(令和 4)年度から開講しているが、短期大学部生 40 名がプログラムを修了して卒業している（内訳：2023(令和 5)年度卒業 20 名、2024(令和 6)年度卒業 20 名）。卒業した短期大学部生の就職先は金融、商社、メーカー、サービス業等があるが、一部にはシステムエンジニア等の技術職に就いた者も含まれている。

■改善に向けた取組

（数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること）

「データサイエンス入門」（プログラムの必修科目）について、身近な社会における AI の利活用をテーマしており、数理・データサイエンス・AI 教育を実体験に即した経験として考えることができ、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解するように促している。また、「社会データ分析入門」「情報と社会」（1 年次春学期より履修可）を履修することにより、学修効果を高める。

（内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること）

- ・ 数理・データサイエンス・AI 教育運営部会にて「学生による授業評価」アンケート等を参考にし、随時、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しについて検討している。
- ・ オンデマンド型の授業ではあるが、Excel の実習課題でうまくできない学生には Teams などの画面共有機能を活かしてフォローを行っている。
- ・ 複数の学生から同様の質問が出てくる場合には、その質問に解答するための動画などを別途作成することで理解度を高められるようにしている。

（産業界からの視点を含めたプログラムの改善）

自治体や企業等に対して、プログラム内容・手法等への意見を、数理・データサイエンス・AI 教育運営部会長がまとめ、数理・データサイエンス・AI 教育運営部会で、企業等が大学に対してどのような期待や習得すべき技能・知識を求めているかなどを把握し、プログラムの改善に活用していく。